

令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立川田谷小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。
- (4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和7年4月17日(木)

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語、算数、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数・理科 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.6	77.5	76.9
情報の扱い方に関する事項	1	61.5	64.8	63.1
我が国の言語文化に関する事項	1	84.6	81.5	81.2
話すこと・聞くこと	3	73.5	67.3	66.3
書くこと	3	77.8	71.1	69.5
読むこと	4	55.8	58.4	57.5

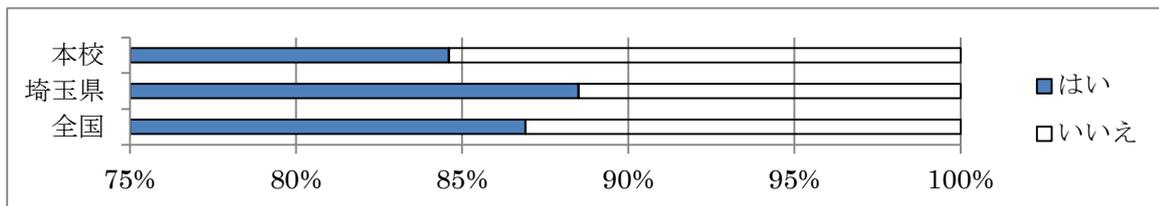
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	8	59.3	63.1	62.3
図形	4	48.7	54.7	56.2
測定	2	48.7	53.9	54.8
変化と関係	3	53.8	57.9	57.5
データの活用	5	59.0	63.4	62.6

理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	4	38.5	46.6	46.7
「粒子」を柱とする領域	6	44.0	52.7	51.4
「生命」を柱とする領域	4	53.2	53.1	52.0
「地球」を柱とする領域	6	70.1	67.7	66.7

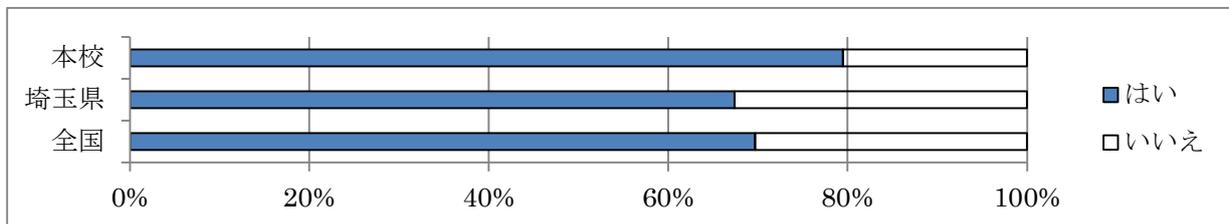
＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

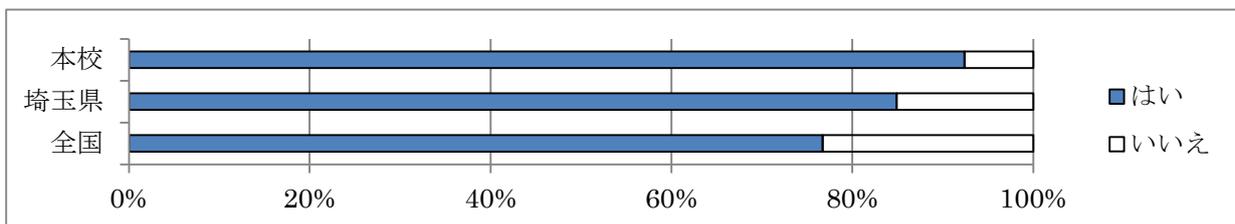
自分には良いところがあると思いますか。



読書は好きですか。



あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか。



<国語>

【分析の概要】

本校の児童については、「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の内容で、県平均及び全国平均正答率を上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」の内容で、県平均及び全国平均正答率を下回りました。

【問題の概要】問題番号目の設問2、(2)の問題

資料を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する問題

【問題の趣旨】

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題で、本校の正答率は、全国平均より2.6ポイント下回っています。

【分析】

文章全体の構成を捉えて要旨を把握するためには、叙述を基に、書き手が、どのような事実を理由や事例として挙げているのかなどに着目することが重要です。ここでは、【資料3】を読み、「とても」という言葉の変化について、叙述を基に「時代とともに言葉の意味が変わる」ということを捉えることが求められます。

【今後の指導の重点】

文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けるためには、読む目的を明確にすることが大切です。また、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることも重要です。その際、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることや、複数の資料を結び付けながら読むことが求められますので、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解できるようにし、自分の考えを形成することにもつなげていけるように学習を展開していきます。

本問では、言葉の変化について学ぶために、みんなで共通の資料を読み、一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことや考えたことをまとめる場面を設定してあります。木村さんは、言葉が年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思い、複数の資料を読んだり、友達と話し合ったりしながら、自分が納得したことについてまとめています。今後、授業の中では、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するとともに、目的に応じて、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりし、分かったことなどをまとめることができる力を高めていきます。

<算数>

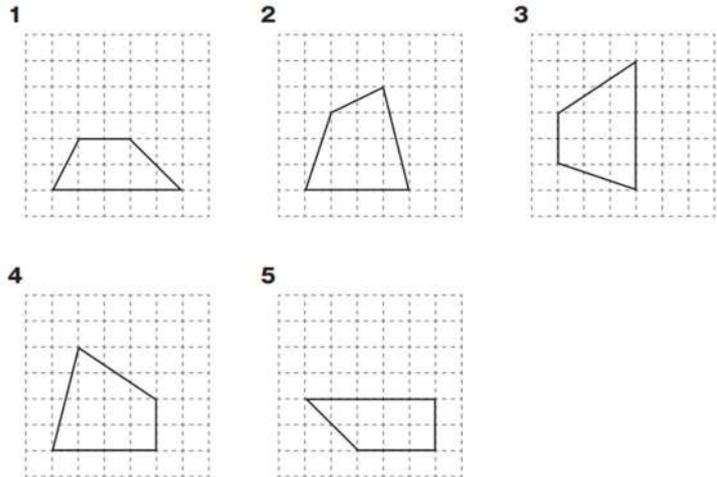
【分析の概要】

本校の児童については、「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「C 変化と関係」「D データの活用」のすべての領域で、県平均及び全国平均正答率を下回っています。問題形式からの正答率を見ると、記述式の問題で特に正答率が低くなってしまっています。

【問題の概要】問題番号2の(2)の問題

方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ問題

- (2) わかなさんは、方眼紙に下の 1 から 5 までの四角形をかきました。
下の 1 から 5 までの中で、台形はどれですか。
3つ選んで、その番号を書きましょう。



【問題の趣旨】

台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題で、本校の正答率は、全国平均より19.4ポイント下回っています。

【分析】

辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形を弁別できるようにすることが大切です。本設問では、台形の意味や性質について理解しているかどうかを問うています。ここでは、方眼上の四角形を台形と捉えるために、向かい合った一組の辺が平行であることに着目することが必要です。

【今後の指導の重点】

図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や図形の構成の仕方、図形の計量について筋道を立てて考察することが重要です。そのために、例えば、辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方を考えたり、図形の性質を基に図形を弁別したりすることができるようにすることが大切です。また、図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を基に、図形の面積の求め方を説明できるようにすることも大切です。そのため、図形について学習してきたことを振り返り、平行四辺形や台形を作図したり、角の大きさを比べたり、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を考察したりする活動を取り入れて指導していきます。

<理 科>

【分析の概要】

本校の児童については、「生命」、「地球」を柱とする領域で、県平均及び全国平均正答率を上回り、「エネルギー」、「粒子」を柱とする領域で、県平均及び全国平均正答率を下回りました。

【問題の概要】問題番号4の(1)の問題

水の温まり方について、問題に対するまとめを説明するために、調べる必要があることについて書く問題



ゆういち

【問題に対するまとめ】

ビーカーの底の中心を温めたとき、水の温められた部分が上に移動して、全体が温まる。

ゆういちさんがまとめてくれて気づいたのだけど、この実験の【結果】だけでは、そのようなまとめはできないと思うな。この実験では、水の（ア）について調べていないのだから。



ひろみ

【問題の趣旨】

水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題で、本校の正答率は、全国平均より22.4ポイント下回っています。

【分析】

水の温まり方について、解決の方法を発想しながら問題を解決できるか、水に関する知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題です。実験で調べる必要があることについて、水の温められた部分の温度に関する観察、実験が必要であると正しく捉え、結果からは水の動きしか分からないが、問題に対するまとめでは結果からは分からない水の温度について話をしているため、水の温度について調べる必要性を指摘することが求められます。

【今後の指導の重点】

このような問題では、水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出すために、調べる必要があることについて検討して表現することができるかを問題としています。ここでは、水の温まり方について、予想を基に解決するための観察、実験の方法を発想し、表現することが求められます。問題に対するまとめを導き出す際、解決の方法が適切であったかを検討する活動が大切になってきます。そのため、予想したことを確かめる方法になっているかを検討して改善し、発想した解決の方法がその通りできていたか考えることの重要性を意識して授業を改善することが大切であると考えられます。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和7年5月14日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	12	58.1	62.7	12	65.1	74.9	15	69.5	70.0
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	30.0	41.2	4	69.2	64.6	2	72.4	69.9
話すこと・聞くこと・書くこと	9	37.8	46.1	6	42.9	46.4	5	48.4	49.9
読むこと	4	38.3	50.0	8	45.2	56.2	9	43.3	44.2
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑	↑↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	66.4	67.3	14	46.4	52.0	13	51.6	59.0
図形	5	60.0	64.9	8	47.1	52.1	8	39.8	43.9
4年測定 5,6年変化と関係	7	70.5	68.2	6	32.1	36.1	7	49.2	54.5
データの活用	6	59.4	62.5	4	44.2	46.5	5	39.5	45.7
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑	↑↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	93.3	93.9	94.4
		93.3	88.5	92.1
	② 授業の開始時刻	88.4	91.2	95.4
		83.3	92.3	97.4
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	77.8	80.7	87.4
		83.3	76.9	86.8
④ 整理整頓	81.4	78.1	80.2	
	76.7	76.9	68.4	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	81.5	82.0	84.5
		93.3	88.5	84.2
	⑥ 返事	88.5	91.1	93.6
		93.3	92.3	81.6
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	88.7	90.3	92.9
		86.7	88.5	89.5
⑧ やさしい言葉づかい	85.5	86.9	89.4	
	86.7	84.6	78.9	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.4	85.9	89.7
		83.3	80.8	86.8
	⑩ 話を聞き発表する	83.8	83.2	83.7
		90.0	80.8	78.9
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	82.9	84.6	87.8
		90.0	80.8	78.9
⑫ 掃除・美化活動	87.7	87.3	88.9	
	86.7	80.8	76.3	

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

授業での取組

☆■ 「学びの共同体」に取り組み、ペア・グループ活動を位置づけ、互いの意見を聞き話し合うなど、個々の考えを大切に、意見交流する時間を確保します。周りの人に分からないところを徹底的に聞いたり、小グループでの発表を積み重ねたりする中で児童自身の力を高めていきます。

授業以外の取組

☆■ 「なぜ」「どうして」といった疑問から興味・関心を広げ、学びにつなげていきます。必要に応じてタブレット端末を活用し、自主学習、家庭学習を励行し、学習した知識を生かしたり、興味・関心に合わせた取り組みをしたりできるようにし、児童の意欲を高め、学びを深めます。

保護者・地域の皆様へ

日頃より、川田谷小学校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

川田谷小学校の目指す学校像は、「きき合い つながり合い 学びを楽しむ 川田谷小」です。児童が充実した学校生活を送ることができるように取り組んで参ります。ご家庭や地域においても、挨拶や返事、会話を通して児童とのつながりを大切にしていきたいと思えます。

今年度の調査結果からは、昨年度の課題であった自ら進んであいさつすることや、ていねいな言葉づかい・やさしい言葉づかいをすることが改善されています。また整理整頓など、けじめのある生活ができる児童の育成が課題として挙げられます。今後も、ご家庭で規則正しい生活習慣を身に付けさせるとともに、相手に応じたあいさつや言葉遣い、公共の場での態度などの指導にご協力ください。

また、学校から発信する各種のお手紙や授業で取り組んだもの、家庭学習などに目を通していただき、内容についてお子さんと確認していただけますと助かります。今後とも引き続き、保護者、地域の皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。

令和7年度 学力向上全体計画

桶川市立川田谷小学校

- ・関係法規
- ・学習指導要領
- ・埼玉県小学校教育課程編成要領
- ・埼玉県教育振興基本計画
- ・埼玉県指導の重点
- ・桶川市 学校教育 指導の重点 等

学校教育目標
『自主的・主体的にやりぬく子』

- ・かしこい子
- ・思いやりのある子
- ・たかましい子

- ・地域の実態 ・児童の実態
- ・保護者の願い ・教師の願い
- ・期待される児童像
- ・学力向上に係る本校の課題

【めざす学校像】 「きき合い つながり合い 学びを楽しむ 川田谷小

学びの共同体

一人残らず、すべての児童が
楽しく学ぶことができる学校を目指す



- 各種調査結果
- 学校課題児童アンケートより
- 1 学校が楽しい 94%
 - 2 授業が楽しい 91%
 - 3 友達や先生の話を
しっかりと聞く 95%
 - 4 問題や課題に対して
しっかりと考える 89%
 - 5 自分の考えを相手に
伝える 84%
 - 6 わからないところが
あったときは、友達に聞
くことができる 89%
 - 7 友達となかよくすること
ができる 96%

実施一斉授業スタイルからグループ学習活動形態中心へ

① 学びの環境整備 … 子供たちがきき合える環境
(1・2年)2人ペア・コの字型 (3~6年)3~4人のグループ

児童主体の学習スタイル 『ジャンプ課題』の設定

② 学びのデザイン … 子供たちがきき合える環境
「共有(基本)の学び」と「ジャンプ(発展)の学び」

「わからない」「できない」を分ち合える学習集団の育成

③ 探求と協同 … 学級全体が「学び合う」
グループ活動はきき合いにする

- 各教科の指導の重点
- 各教科**
- 言語環境の整備、言語活動の充実、情報活用能力の育成
 - 体験活動の充実、探究活動の推進
 - 学習を見直し、振り返る活動の定着
- 国語**
- 教材文を正しく読む力を高める指導
 - 必要な語句を用い、根拠に基づいて自分の考えを伝える力を高める指導
- 算数**
- 自分の考えを数学的な表現を用いて表現する力を高める指導
 - 数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて表し、式と図を関連付けて読む力を高める指導
- 特別の教科 道徳**
- 答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、考え、議論する力を高める指導
- 外国語活動・外国語**
- 主体的に楽しくコミュニケーションを取る力を高める指導
- 総合的な学習の時間**
- 主体的・協働的・探求的な学習を通して、教科横断的な学習の仕方を身に付けさせる指導
- 特別活動**
- 学校や学級の課題を見出し、よりよく解決するため話し合っ合意形成する力を高める指導
 - 主体的に組織を作り、役割分担して協力し合う力を高める指導

- 埼玉県学力・学習状況調査
- 【学力レベル 国・算】
- ☆4年生 4-A・4-A
 - ☆5年生 6-C・5-C
 - ☆6年生 7-C・5-A

- 全国学力・学習状況調査
- 【全体平均正答率】
- 国 66.8% 70%(本校)
算 58.0% 52%(本校)
(児童質問紙調査より)
- いじめは、どんな理由があってもいけなさいことだと思いますか。
肯定的な回答→97.4%

Plan (計画)

①課題を改善するための計画

- ・全国学力・学習状況調査、埼玉県学習状況調査等の分析、指導計画、指導方法等の改善策の立案
- ・全職員の共通理解、共通意識
- ・保護者、地域への広報活動

Do (実践)

②計画に基づく指導の実践

- ・全職員共通理解・共通行動による指導の実践
- ・各教科等における指導の実践
- ・校内研修の充実と実践
- ・保護者、地域への啓発と連携

Action (絞り込み)

④課題の絞り込み

- ・新たな課題の確認と分析
- ・次年度の教育計画への位置付け
- ・課題解決プランの見直しと改善
- ・校内分掌体制の見直しと再構築

Check (検証)

③効果の検証

- ・多面的な児童の実態把握
- ・学校評議委員会、学校評価、学校アンケート等による教育活動の成果と課題の把握
- ・校内研修での成果の検証

授業改善の視点(具体的取組)

	I	II	III	IV
観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	保護者・地域との連携を通して
養	○基礎・基本を定着させる場の設定 ○指導方法や指導形態の工夫改善	○教育課程の趣旨の共通理解と確実な実施 ○指導計画、教材等の整備	○児童のよさや学習状況の積極的な評価	○家庭や地域社会との連携 ○幼小中等相互の交流(保育園との交流、中学校訪問、小中連絡会)
職	・少人数指導、T.T ・教材研究の充実 ・言語活動の充実 ・ICT 機器、AI の効果的な活用 ・公開研究会、焦点授業の実施	・年間指導計画の見直し ・学校課題研究の取組 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ・教科横断的な学習	・カリキュラムマネジメントの推進 ・PDCAサイクルの確立 ・評価規準の整備 ・評価計画の作成 ・児童アンケートの活用	・保護者との連携・協力 ・学校応援団との連携強化 ・あいさつ運動 ・学校の情報公開(情報メール、HP等)